

各 位

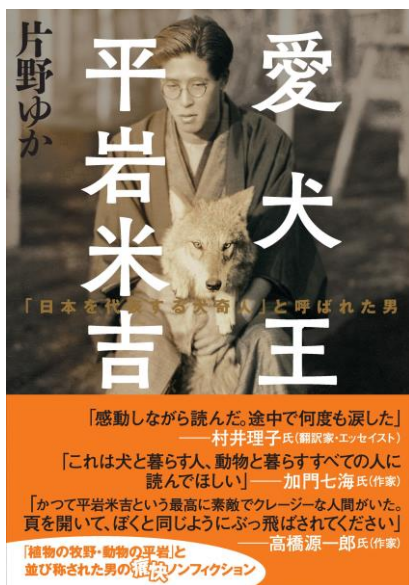
2024年3月19日

株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/>

「植物の牧野・動物の平岩」と並び称された男の痛快ノンフィクション、ヤマケイ文庫『愛犬王 平岩米吉』発刊！

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、ヤマケイ文庫『愛犬王 平岩米吉 「日本を代表する犬奇人」と呼ばれた男』（片野ゆか著）を発刊いたしました。



村井理子氏、加門七海氏、高橋源一郎氏、推薦！！

「感動しながら読んだ。途中で何度も涙した」村井理子氏（翻訳家・エッセイスト）

「これは犬と暮らす人、動物と暮らすすべての人に読んでほしい」加門七海氏（作家）

「かつて平岩米吉という最高に素敵でクレージーな人間がいた。頁を開いて、ぼくと同じようにぶっ飛ばしてください」高橋源一郎氏（作家）

戦前から戦後にかけて、狼をはじめとするイヌ科動物を独学で研究し、雑誌『動物文学』を立ち上げた平岩米吉という人物がいた。

動物行動学の父・ローレンツに先駆けて自宅の庭で犬、狼、ジャッカル、狐、ハイエナと暮らしな

がら動物を徹底的に観察。「シートン動物記」「バンビ」といった動物文学を初めて日本に紹介し、フィラリアの治療開発に私財と心血を注いだ、偉大なる奇人の物語。

本書は在野の研究者や作家が多彩に活躍していた時代の記録でもある。第12回小学館ノンフィクション大賞受賞作。

文庫化にあたり、往時の様子を収めた貴重な写真と作家の直筆原稿を収録。解説／村井理子。



上 ● 愛犬ゲラートを連れて日本橋の丸善へ買い物に行く米吉(昭和11年7月)
下 ● 米吉と佐與子と写真におさまる生前のチム(昭和6年12月)



上 ● 縞ハイエナのヘー坊に手から食べ物を与える米吉(昭和12年2月)
下 ● 狼を飼い馴らした米吉。飼い主を信頼しきって身を委ねる狼の表情が愛らしい(昭和13年4月)

愛犬王 平岩米吉 目次

プロローグ

2

第一章 狼に憧れた神童

11

第二章 白日荘のにぎやかな住人

53

第三章 動物文学に集う人々

95

第四章 愛犬の系譜

143

第五章 戦火のなかの動物たち

191

第六章 犬は笑うのか？

241

第七章 狼との対話

291

第八章 奇人先生の愛した犬たち

337

エピソード

390

あとがき

398

文庫版あとがき

404

解説 村井理子

413

出典・参考文献

422



「執筆中」の札が数日ぶりに書斎の入り口からはずされたのは、梅雨のある日のことだった。

平岩家では、米吉が原稿に向かっていて、大声で話したり笑ったり、足音を響かせたりするなど、大きな音をたてることは一切禁止されていた。息をひそめて神経をビリビリとさせる日々は、一度始まるといつまで続くかわからない。でも書斎の札が一度はずされれば、家の中にはたちまち開放的な空気が流れだす。

この時を待ちわびていたのは、妻や子どもたちだけではなかった。

犬たちも、米吉の変化を敏感に察知した。興奮した彼らの爪は、ただでさえ傷だらけの廊下にさらに新しい傷をつくった。茶の間の畳は、すり切れてほとんど目が見えなくなっている。米吉が手をさし出すと、犬たちは先を争うように頭をすり寄せてくる。自分から転がってお腹を見せる犬もいる。澄んだ、明るい吠え声が家中に響きわたった。

ひとしきり犬たちと遊んだ米吉は、恒次博四郎としばらく会っていないことを思い

出した。恒次は消化器科の専門医で、渋谷で病院を開業している。米吉とは互いの家を訪ねあって雑談や囲碁、連珠を楽しみ、気が向けばひいきの料理屋に出かけるといった付き合いが続いていた。しかしそれも、ここしばらくの多忙で途切れていた。

米吉は合いのインバネスをおつて玄関を出た。

インバネスはケーブ付きのロングコートで、イギリスから輸入されて明治の終わり頃までは知識階級のあいだで流行したといわれているが、昭和四十年前後にもなつてこんな古めかしいものを着て出歩く者はめずらしかった。だが、米吉はこれをいたく気に入っていた。そもそも正装などの仰々しい恰好は苦手だった。身につけるものは、サラリとはおれる身体をしめつけないものにかぎる。そう思っていた米吉は、真夏であれば、ほとんど着流しでどこへでも出かけていた。

自宅から緩やかな坂を下ってしばらく歩くと、東急東横線の自由が丘の駅に着いた。昼過ぎという時間帯もあって車両の乗客はまばらで、座席のひとつに腰をおろした。米吉にとって、ライフワークともいえる大きな仕事は、雑誌『動物文学』創刊時からめざしている、ひとつの文学分野の確立だった。

動物文学とは何か？ それについて米吉は次のように書いている。

■内容

- 第1章 狼に憧れた神童
 - 第2章 白日荘のにぎやかな住人
 - 第3章 動物文学に集う人々
 - 第4章 愛犬の系譜
 - 第5章 戦火のなかの動物
 - 第6章 犬は笑うのか？
 - 第7章 狼との対話
 - 第8章 奇人先生の愛した犬たち
- 文庫版あとがき
解説 村井理子

■著者について

片野 ゆか (かたの・ゆか)

1966年、東京生まれ。

2005年に『愛犬王 平岩米吉伝』（小学館）で第12回小学館ノンフィクション大賞受賞。

犬をはじめとする動物に関わる本を手掛け、『セカンドキャリア 引退競走馬をめぐる旅』『ゼロ！熊本市動物愛護センター10年の闘い』『動物翻訳家 心声をキャッチする、飼育員のリアルストーリー』『平成犬バカ編集部』（以上、集英社）など著書多数。

話題を呼んだ『北里大学獣医学部 犬部！』（ポプラ社）は映画化、コミック化されている。

■書誌データ

書名：ヤマケイ文庫 愛犬王 平岩米吉 「日本を代表する犬奇人」と呼ばれた男

著者：片野 ゆか

発売日：2024年3月19日

定価：1265 円(本体 1150 円+税 10%)

440 ページ／文庫判／1 色刷

<https://www.yamakei.co.jp/products/2823049890.html>

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930 年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心とした山岳・自然科学・アウトドア・ライフスタイル・健康関連の出版事業のほか、ネットメディア・サービスを展開しています。

さらに、登山やアウトドアをテーマに、企業や自治体と共に地域の活性化をめざすソリューション事業にも取り組んでいます。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当：綿

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: info@yamakei.co.jp

<https://www.yamakei.co.jp/>